

まちの話題 ～音楽のまちづくり人～



『音楽によるまちづくり』を推進している沖縄市ですが、実際にまちに暮らしている**音楽のまちづくり人**の思いを聞いてみたい…。今回は、有限会社キャンパス代表取締役の備瀬真紀子さんを訪ねました。



びせ まきこ
備瀬 真紀子 さん
(有限会社キャンパス 代表取締役)

創業52年の老舗レコード店であるキャンパスレコードには、真紀子さんが生まれる前から、県内で活動するミュージシャンが頻りに訪れていたそうです。物心がつく頃にはいつも、父：善勝さんと音楽人達との交流の中びとにいたため、自然と真紀子さんの周りには沖縄音楽が溢れ、それが真紀子さんの“日常”だったとのこと。

「『良いな』と思うものは、ジャンルを問わず聴いていました。コザの音楽は、ロック、民謡、全部チャンプルー。ジャズのミュージシャンが民謡に合わせて曲を弾く、というように垣根がない。ひっくり返してコザの音楽だと思えます」と話す真紀子さん。「昔は日常に沖縄音楽が入っていましたが、今、若い人は各々で好きな曲だけを聴いていますよね。別々に楽しんでいて、生活の後ろにあった沖縄音楽は流れていないように思います」キャンパスレコードでは、おすすめの沖縄音楽をチョイスした音源をYouTube配信しているそうです。「若い人の暮らしの中に沖縄の民謡や島唄、音楽が浸透していくと良い」

日常で、バックミュージックのように心地よい沖縄音楽が流れるまち。それが、真紀子さんの想い描く『**音楽のまち**』です。

(取材：比嘉盛喜)

有限会社 キャンパス (キャンパスレコード) TEL.098-932-3801

お問い合わせ／文化芸能課 音楽芸能係 TEL.098-939-1212 (内線 3556)

防災まめ知識



vol.3

～台風対策の心得～

台風による被害のひとつに停電が挙げられますが、平成30年に発生した台風第24号では、沖縄市内における停電率は約43%で、最も長い停電時間は市内の一部で100時間（4日と4時間）を記録しました。

主にマンションやアパートなどの一般住宅では、電力でポンプを動かして各階の部屋に水を供給している場合があり、停電が断水に繋がるケースが多くみられます。実際、台風第24号の際も、一部のアパート等で停電後に水が使用できない状況が続きました。

毎年やってくる台風シーズン、長期の停電も踏まえた事前の台風対策を心掛けましょう。

■台風対策のポイント■

○家の外の備え

- ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する
- ・側溝や排水口は清掃して、水はけを良くしておく
- ・風で飛ばされそうな物を飛ばないように固定、または家の中へ格納する



気象庁提供

○家の中の備え

- ・非常用品を確認する
例：懐中電灯・携帯用ラジオ（乾電池式）・薬・非常用食品・携帯用ボンベ式コンロ等
- ・万一の飛来物に備えてガムテープ等を窓ガラスに貼る、またはカーテンなどを閉めておく
- ・停電に起因する断水等に備えて、飲料水の確保や、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する

(台風対策のポイント：沖縄気象台提供資料から一部引用)

お問い合わせ／防災課 TEL.098-939-1212 (2047・2349)